

賢い人の家

(詩編 127:1、マタイ 7:24~29)

マタイによる福音書 23 章 37 節からを見ると、イエス様がエルサレムのために嘆くところがあります。ご自身の心情をめん鳥が雛を羽の下に集めるように、私はお前の子らを何度集めようとしたかと言われます。しかし、それにもかかわらず応じようとしないエルサレムの人々に向かって嘆いておられたのです。預言者たちを通して真理の道を示して、何度も救おうとしますが、石で殺してしまう、つまり、不法と悪、暴力に満ちた世界を見て嘆いておられたのです。当時のイスラエルの状態がどのようなものであったのかが分かります。

ローマの圧政によって民衆の生活は厳しく、そのようなローマに対抗する勢力との衝突が絶えずあり、混乱の状態でした。民心は堅くなり、指導者たちは自分の権力と利益を守ることに必死で、何よりも神殿も、宗教指導者たちも墮落していたのです。

そのようなイスラエルに神様は待ち望んでいたメシア、救い主を送ってくださったのに、その真理の声を聞こうともせず、十字架で殺してしまったのです。それを既に知っておられたイエス様ですが、それでも最後までめん鳥が雛を羽の下に集め、保護し、守ろうとするように、愛の業をなさってくださったのです。裏切ることを知っておられたのにもかかわらず、弟子たちを最後まで愛しておられました。飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ、いろいろと教えてくださったのです(マルコ 6・34)。この世の悪に苦しんでいる人々に、平和と真理の神の国を知らせ、その神の国の民としてどのように生きるべきかを教えようとなさったのです。それが山上の説教です(マタイ 5 章)。

今、朗読した聖書の箇所はその山上の説教の最後の部分で、結論的なところでもあるのです。

主イエスの言葉を聞く者が大勢いました。しかし、そこで岩の上に家を建てた人と、砂の上に家を建てた人の話をされます。パレスティナ地域には山のように大きな岩があるようです。その地域において大きな岩は身近にあるものでした。また、川の砂は暑い気候で乾き、固まっています。地面のように見えますが、雨が降ると、その水に流されてしまうのです。そのような身近な自然を通して、イエス様は福音の真理を示そうとなさいました。

岩の上に建てられた家は、雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかったのです。しかし、砂の上の家は、雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家に襲いかかると、倒れて、その倒れ方がひどくなりました。砂の上ですから想像できるものです。

まず、ここでいう岩という土台とは何でしょうか。

使徒パウロは言います。「(I コリント 3:10~) わたしは、神からいただいた恵みによって、熟

練した建築家のように土台を据えました。」「3:11 イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません。」とイエス・キリストこそ、土台であることを示しています。キリスト以外には私の人生の岩になることができないと言っているのです。

ある学者は、ここで、砂というのは、「変わりやすい人の好み、気ままな欲望、はかない人生の目的、頼りにならない人間の判断、時代と共に移り変わるとう人間的な価値観、道徳、変わる人の良心というもの」を指すのだと言います。つまり、人間中心の思いです。

人間的な思いで、人生の家を建てると、試練と誘惑がある時にはひどく倒れてしまう。しかし、真の岩であるイエス・キリストを土台にした家は、全存在を揺るがすような試練と苦難があっても倒れることがないのです。永遠に変わらない、崩れない土台なのです。

賢い人はどのような人かと言うと、イエス様の言葉を聞いて行う人です。つまり、イエス・キリストという岩の上に家を建てることです。しかし、愚かな人はイエス様の言葉を聞きますが行わない、主イエスの教えを聞くが、信じない、従わないことです。この世の空しいもの、砂のようなものに惹かれてしまう人です。

ここで、行うということは主イエスを信じてその言葉に従うか、従わないか、のことを指しているのです。聞くということはそのように生きることです。めん鳥が雛を羽の下に集め、保護し、守ってくださることを信頼して、親鳥の羽の下に隠れるように、私たちは雨が降り、風が強い時は主の蔭にもっともっと近づき、そこに身を寄せるのです。主に近づき、信頼して生きる、それこそ、岩の上に家を建てた賢い人なのです。

群衆はイエス様の教えに非常に驚きました。彼らの律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからであります。神の子自身が真理を発しておられたからです。

この権威ある方こそ、わたしたちの人生の土台です。動かない岩の上に土台を置いて家を建てた人のように、主イエスに深く根ざして生きることが失敗しない人生であるのです。主イエスの中で、主イエスにおいて、主イエスを通して、主イエスによって、わたしたちは神様のみ旨を聞き、行うのです。

「主御自身が建ててくださるのでなければ、家を建てる人の労苦はむなし。主御自身が守ってくださるのでなければ、町を守る人が目覚めているのもむなし。(詩編 127:1)」のです。

私たちは主イエス・キリストという岩の上に家を建てているのでしょうか、イエス・キリストを土台にした家に住む人は試練の嵐の中でも、苦難が囲んでいても、誘惑の手が近づこうとしても、めん鳥の羽の下にいる雛のように、その家で守られ、平安のうちに生きることができるのです。

主イエスはご自身の命を捨ててまで、私たちに愛してくださるのです。